



# 遠野高校「新しい遠野物語を創るプロジェクト」 東京2020パラリンピックフラインドサッカー ブラジルチームホストタウン遠野市の挑戦



岩手県立  
遠野高等学校

## 岩手県立遠野高校フラインドサッカー班

中屋礼也、高原広大、高山理久、中村大斗、蜂谷千寿、前田宗一郎、佐々木凜、平賢心、多田雷羅

上野翔太、宮田亮郡、菊池琉月、門間波功、山陰一夢、大和優輝、高田遥可、菊池翔瑛、大倉颯太郎、浅沼瑠香、小嶋日妃音、  
栗沢陸、水野嵐斗、小原陽成、伊藤香月、菅田優斗、川崎大翔、佐々木碧人、佐々木凌弥、新田夢祈、吉田孝哉、角田大地、

今野寿哉、遠藤淳貴、千葉魁、遠山海弘、菊池優斗、佐々木亮成、五十嵐康成

富士大学

担当アドバイザー 富士大学スポーツ振興アカデミー 内城 寛子 高鷹 雅也

# 0. はじめに

今年、2020年、東京で2回目のオリンピックが開催されます。同時に障がい者スポーツの祭典パラリンピックが開催されます。年々、障がい者スポーツへの関心が高まっているので、観戦しようと思っている人も多いと思います。

私たちのふるさと遠野市は、視覚障がい者5人制サッカー世界NO.1のブラジルチームのホストタウンです。昨年7月には、選手の皆さんが開催地視察を兼ねた強化合宿のために遠野市を訪れました。選手の練習や試合を見ていると、目が見えていないにもかかわらず、思い通りにボールを運び、狙ったところにシュートを打つ技術の高さに驚きました。私たちは、この感動を多くの人に知ってほしいと感じるようになりました。

今日は、私たちが1年かけて課題探求した「地域における障がい者スポーツの普及と共生社会の実現」について発表します。

この課題探求活動が障がいのある人たちへの差別や偏見をなくすことはもちろんのこと、公的な福祉の充実とともに地域に暮らす人どうしが心のバリアをなくし、ともに支え合う社会の実現に寄与されることを願っています。

# 1. 課題設定の背景



- 遠野市は東京2020パラリンピック視覚障害者5人制サッカー（フラインドサッカー）ブラジルチームのホストタウン。
- 遠野市の一員として、ホストタウン活動に貢献したい。

サッカーが好きな私たちだったら微力でも遠野市のかになれるかな・・・でも、どんなことをすればかになれるのだろうか。



## 2-1. 課題発見①

- ホストタウンとは？
- 遠野市が世界一のブラジルチームのホストタウンに選ばれた理由は？
- 共生社会とは？
- 共生社会の実現にスポーツが本当に役立つの？
- 視覚障がい者5人制サッカーは難しい？
- 健常者でも練習すればアイマスクをしてサッカーができる？

## 2-2. 課題発見②

- 私たち高校生が共生社会づくりの為に何ができる？
- 共生社会実現に向けた日本や地域の取組は？
- 諸外国は障がい者支援をどのようにしているの？
- 遠野市の取組みをサポートしたい。
- まずは、多くの人に障がい者スポーツの魅力を  
知ってほしい。
- 高校生ができることは何だろうか？

## 3-1. 課題解決のための方針

- 多くの人にフラインドサッカーを知ってもらおう！
- ブラジルから来た選手のおもてなし！
- 自分たちもフラインドサッカーを試してみたい！



- ①自分たちでフラインドサッカー体験をしよう！
- ②遠野市の子どもたちにも教えよう！
- ③ブラジル選手をサポートできる機会を活かそう！
- ④フラインドサッカーの知名度を上げよう！



## 3-2. 課題解決のための活動計画

| 日にち       | 活動計画                              |
|-----------|-----------------------------------|
| 5月7日(火)   |                                   |
| 5月28日(火)  | 事業スタート ボランティア講習会 遠野市スポーツ課 倉内さんの講話 |
| 6月4日(火)   |                                   |
| 6月5日(火)   | 遠野西中学校アイマスク・白杖・ブラサカ体験会開催          |
| 6月25日(火)  | グループ内体験会の開催と遠野東中体験会準備             |
| 7月9日(火)   | 遠野東中学校アイマスク・白杖・ブラサカ体験会開催          |
| 7月5日～17日  | ブラジル5人制サッカーチーム遠野市合宿サポート           |
| 7月23日(火)  | 中間とりまとめ・今後の展開について検討会(中間評価)        |
| 9月3日      | 課題解決に向けた実践演習①(ブラインドサッカーの実践)       |
| 9月24日     | 課題解決に向けた実践演習②(ブラインドサッカーの実践)       |
| 10月15日    | 課題解決に向けた実践演習③(ブラインドサッカーの学内練習試合)   |
| 10月29日    | 課題解決に向けた実践演習④(ブラインドサッカーの学内試合)     |
| 11月5日・26日 | 情報整理、中間発表会準備                      |
| 11月26日    | 第2回ゼミ内中間発表会                       |

## 4. 活動内容

- 活動① 昨年のプロジェクトの引き継ぎ。先輩から白杖体験・アイマスク体験会の開催手法を学ぶ。
- 活動② 遠野東中生・遠野西中生対象白杖体験・アイマスク体験会を開催する。
- 活動③ 遠野市職員・ボランティアメンバーとともに 世界一のチーム フラジルメンバーの活動をサポートする。
- 活動④ 遠野まつりでホストタウン周知活動する。
- 活動⑤ フラインドサッカーの試合にチャレンジする。

# 活動①：白杖体験・フラインドサッカー体験会 (先輩からプロジェクトの引継ぎ研修)

## 活動内容(2時間)

### ○視覚障がい者の歩行補助を学ぶ

- \* 少し前方を歩き、肩やひじをつかんでもらう
- \* 時計盤で進む方向や障害物を指示する

### ○視覚障がい者の気持ちを知る

- \* アイマスクをして白杖を使い歩く

### ○フラインドサッカー体験

- \* アイマスクをしてボールを前に進める
- \* 音の鳴るボールに慣れる
- \* 目の見えない中でゴールを狙う



# 自分たちが白杖・アイマスク体験をする目的

- 障がい者の気持ちを理解できるようにしたい。
- 障がい者のサポートをするときの声のかけ方を工夫する。
- 白杖体験の時に相手に伝わるような説明、タイミングを心がける。
- 先輩方が教えてくれる内容を覚えて、次は自分たちが中学生に教えることができるようになる。
- 体験会の進行がスムーズに進められるように、内容と手順を理解し、積極的に活動する。
- フラインドサッカーの体験を楽しむ。
- フラインドサッカーの難しさを理解する。

# 白杖・アイマスク体験をしてみたての結果

- 先輩たちが近くでわかりやすい説明をしてくれたので参考になった。
- フラインドサッカーについて理解できたし、障がいのある人の気持ちも理解できたので良かった。
- 目が見えないことは生活しづらいという気持ちを理解できた。
- 誘導するときの声のかけ方のタイミングや声の大きさを工夫できた。
- 誘導するとき何を伝えればいいのかわからなかった。
- 障がいのある方がどのような生活をしているかを少し理解できるようになった。
- 目の見えない中でドリブルをするのは大変だった。



# 白杖体験・アイマスク体験をして気づいた課題

- ・説明するときに恥ずかしくて声が出せないことがあった。
- ・視覚障がい者の立場に立って補助の仕方を考える必要があると思った。
- ・地域の人たちに障がい者の補助方法について伝えていきたい



- もっと障がい者の気持ちを知ることが大事!!
- 中学生に視覚障がい者の誘導の仕方をわかりやすく伝えたい。
- フラインドサッカーのことをもっと詳しく知りたい。
- 体験会の成功に向けてしっかり準備をしていきたい。



## 活動②：遠野東中学校・西中学校での 白杖体験・フラインドサッカー体験会の開催

地域の子どもたちが視覚障がいのある方へのサポート方法を学ぶことを通じて、障がいの理解につながることを期待して体験会を開催しました。

### 活動内容

6月25日 遠野西中学校体験会

7月9日 遠野東中学校体験会

○白杖・アイマスク体験

○視覚障がい者の歩行サポート体験

○フラインドサッカー体験



# 中学生に白杖・アイマスク体験を教える目的

遠野東中学校にはブラジル代表チームが中学校にやってくる7月10日の前日に行きました。視覚障がい者の気持ちやサポートの方法をお互いに学び合うことを目的に行いました。

中学生の皆さんも熱心に活動に取り組んでくれました。フラインド作家体験も楽しんでもらっている様子で良かったです。

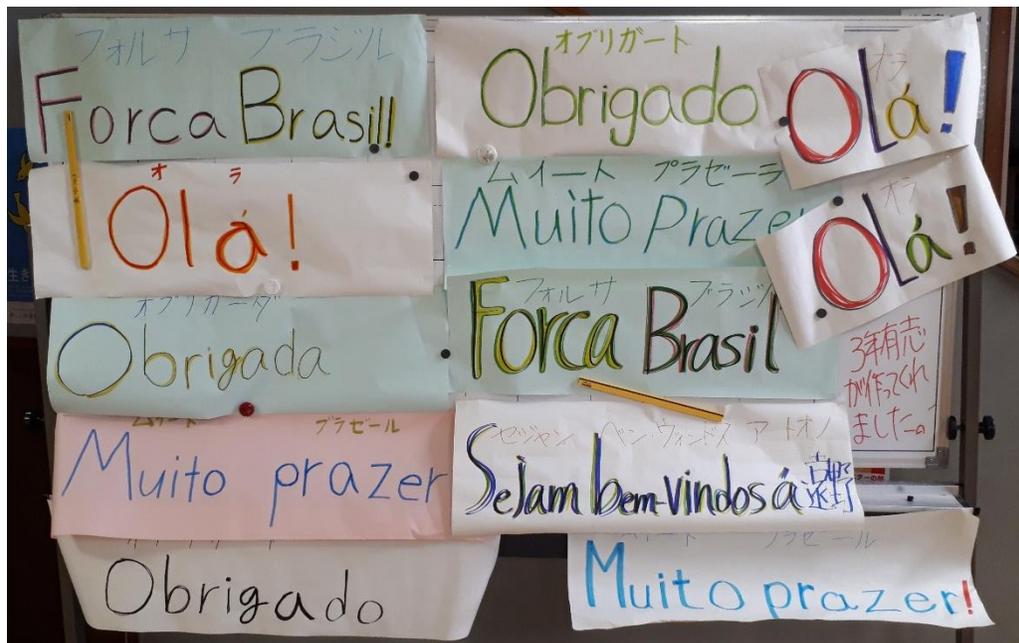


# 遠野東中学校のホストタウン活動の様子



(写真左)  
ブラジル代表チームの歓迎  
ボードを作成していました

(写真下)  
ポルトガル語（ブラジル公用語）  
であいさつを覚えていました



# 中学生をサポートして出てきた課題

- ・練習会を重ねたことでうまく説明ができたし、活動を進めることもできた。
- ・より具体的な説明ができるのもっと良かったと思う。
- ・中学生と一緒に笑顔で活動出来てよかった。



またこのような体験会があったらもっと積極的に関わって、わかりやすく説明したい。今度は声の大きさやトーンにも気を付けて話したい。（蜂谷くんの説明が良かった！）



# 活動③：ブラジルチームサポートボランティア (世界No. 1チームのサポート、 =障がい者への心のバリアフリーの実践)



# ブラジルチームキャンプサポート体験

## <サポート内容>

- ・7月7日（日） 遠野市パラスポ体験会サポート（順天堂大学の皆さんと）  
（ボッチャ、シッティングバレー、フラインドサッカー、アンフティサッカー）
- ・7月11日（木） 遠野サッカー場から稲荷までかごやバーなどの荷物運び  
ボール拾い、水配り、壁直し、会場設営等
- ・7月12日（金） 代理ゴールキーパー
- ・7月14日（日） ブラジル代表VS日本代表 試合ボランティア  
（準備、後片付け、アナウンス、ボールボーイ）
- ・7月15日（月） ブラジル代表VS日本代表 試合ボランティア  
（準備、後片付け、アナウンス、ボールボーイ）



# 7月7日の障がい者スポーツ体験会ボランティアの様子

シッティングバレーやボッチャのような障がい者スポーツはこれまでのイメージと異なり、障がい者と健常者がともに思いっきりゲームを楽しめる競技だと思いました。普段、体育で教わる競技だと、障がい者ととともに競うということはありませんが、障がい者スポーツだとお互いのハンディが必要なく遠慮なくできるののでいいと思いました。



# 新しい遠野物語として語り継ぎたい体験をした！

- ・東京パラリンピックでブラジルチームを現地で応援したい！
- ・障がい者5人制サッカーや障がい者スポーツの活動を知ってもらうことで障がいがあっても「自分でもできる、やってみよう」と勇気を持つことができるとういと願う。
- ・障がい者への差別や偏見をなくすためにこの取組みを広げていきたい。
- ・ブラジルに遠野という名前が伝わり、覚えてもらったのではないかと思う。
- ・ブラジルのキーパーがけがをしたために僕がゴールキーパーをした！



# 実際に活動してみても出てきた課題

- まだまだ、フラインドサッカーの認知度が低い。
- フラインドサッカーの魅力を広く知ってもらいたい。



- フラインドサッカーをメジャーなスポーツにしたい！
- フラインドサッカーをするための環境づくりが難しい。
- 会社や地域社会の中で体験会をすることで、障がい者への差別や偏見をなくす活動の輪を広げたい。
- でも何が必要か、まだわからない部分が多い！



# ブラジルチームの試合を観戦して・・・①

- ・選手たちは目が見えていないのに、正確なパスやシュートが打てたり、素早いドリブルができていてとてもすごいと思った。
- ・選手たちは、通常のサッカー競技にはない「壁」を使ってボールの位置や自分の位置を確認していることが分かった。
- ・「壁」の使い方が攻撃にとって重要だと知ることができた。
- ・常に足元に音の鳴るボールを置いて、自分とボールが一体になっていた。
- ・選手たちの研ぎ澄まされた感覚がすごいと思った。
- ・日本代表もブラジル代表もキーパーの指示が明確だった。
- ・ブラジルチームの選手は体格がすごくて、シュートの威力が強かった。
- ・声が常に出ていた。
- ・動画で見るよりも直接見た方がリアル感があって勉強になった。

## ブラジルチームの試合を観戦して・・・②

- ・ 試合中の選手は、相手がいつ、どこから来るのかわからない中でプレーをしているので危険が伴うことが分かった。
- ・ 自分が思っていたよりもまじかで見ると迫力があつた。
- ・ 目が見えないのに恐怖感を感じさせないプレーの連続で驚いた！
- ・ 目が見えない分、一人一人が思いを声に出して伝えあっていて感心した。
- ・ 選手にとっては、監督やキーパー、ガイドの指示が重要になるので、その声が聞こえやすいように観戦中はできるだけ音を出さないようにしてやる必要があると感じた。
- ・ 世界で戦う日本選手団の活躍も感じることもできた。
- ・ ブラジルチームの戦略や技術の高さを知ることができた。
- ・ 指導者が指導方針を持ち、課題を理解することが大事だと感じた。

## 日本・ブラジル代表戦のサポートで気づいた点、感じた点

- ・ フラインドサッカーのルールや運営方法を学んだ。
- ・ 声が一番大事だということを理解した。
- ・ 知らない音が入ると判断に迷いが生じることも分かった。
- ・ コーラーは声が良く通る女の人が多いと知った。
- ・ 声だけを頼りにするのではなく、壁をうまく使っていた。
- ・ 指導者の指示の方法に違い、トレーニングや戦術にも国の違いがあった。
- ・ 遠野市がクラブハウスを作ったことで運営をスムーズにできたと思う。
- ・ 指導の改善点や楽しさを伝える指導法について考えることができた。
- ・ 試合後に選手どうしがお互いに肩を寄せ合い、笑顔で挨拶をし、話している姿が一番印象に残った。

# 中間評価：ここまでの活動の課題をPDCAサイクルでチェック

**目標**：遠野市の一員として、ホストタウン活動に貢献したい

**行動計画 (Plan)**：

- ① フラインドサッカーの認知度を高める。⇒ (白杖・アイマスク) 体験会の開催
- ② 遠野市ホストタウン事業ボランティア ⇒ フラジルチームのサポート & おもてなし

**これまでの取組 (Do)**：

- ① 遠野市内中学生で白杖・アイマスク体験会を開催。フラインドサッカーの楽しさを啓発。
- ② フラジルチームのキャンプサポート & 遠野市開催障がい者スポーツ体験会ボランティア

**これまでの取組の反省課題の視点 (Check)**：

中学生に視覚障がい者のことを知ってもらう活動ができたことは良かった。フラジルチームのサポートをできたことはとても感動した。フラインドサッカーが楽しいことも理解できた。だからこそ視覚障がい者のことやフラインドサッカーのことをもっと知りたい。課題をグループで考えてみた。

# グループで中間評価してみた結果

① 事業内容 (100点)  
 ② 市民への浸透度 (30点)  
 ③ 今後の継続性 (80点)  
 ④ 総合点 (70点)

事業内容... クラウドハウスが立ち、創設がスムーズに進んでいるから  
 市民への浸透度... 変化が有利感じられるから  
 今後の継続性... 自分たちの創設が楽しく進んでいる部分もあり、町の人々も自分たちの活動を多く伝えたいから。

① 事業内容 (80点)  
 ② 市民への浸透度 (30点)  
 ③ 今後の継続性 (40点)  
 ④ 総合点 (60点)

今後、自分たちですべきこと  
 ・ポスター作成  
 ・来年にブラインドサッカーを受け継ぐ。

・事業内容 (80点)  
 ・市民への浸透度 (40点)  
 ・今後の継続性 (80点)  
 ・総合点 (60点)

今後、自分たちですべきこと  
 市民にもっと知ってもらうためにポスターなどを作って伝える。(市民への浸透度を上げる)

事業内容 80点 理由 内容は良いが、もっと広めるバリエーションを増やす  
 市民への浸透度 30点 遠野市全体に広められていない  
 今後の継続性 50点 これからはチームと連携して、さらに深く行いたいから  
 総合点 60点

今後どうすべきか  
 これからも、小、中、高校生にこれまで自分達が行ってきたことを伝える。  
 自分達がブラインドサッカーを深く理解し、細かい所まで教えられるようにする。

事業内容 (80点) 学生は少ない、市民への活動が少ないから  
 市民への浸透度 (30点) 市民への浸透度が低い  
 今後の継続性 (30点) 浸透度が高い、継続性が高いから  
 総合点 (45点)

今後、自分たちですべきこと  
 浸透度を上げれば、共に継続性が上がる。そのために事業内容をもっと濃くする必要があるので、自分で自分達が実際に5人制サッカーを行い、それをポスターとしてつくる取り組みをすれば良いと思う。5人制サッカーを実際に行うことにより、自分たちの知らない難しさや、ルールを深く知ることが出来る。そこで、知ったことをポスターにまとめ、町に掲示すれば、自然と市民の目に入り、浸透度が上がる。

① 行政施策・取り組みを評価する

事業内容 70点  
 市民への浸透度 45点  
 今後の継続性 60点  
 総合点 62点

<今後すべきこと>  
 もっと多くの人に活動をアピールする。

② 障害者5人制サッカーや障害者スポーツの方々の活動を知らせてもらうことで、障がいを持っている人でも「自分たちもできる!!」と勇気を与えることができると思う。また、「自分もやってみよう!」と思うきっかけにもなると思う。

事業内容 (80点) まわり  
 ↓  
 市民への浸透度 (10点) 上へ70  
 ↓  
 浸透しているのが確認できない。 世界  
 今後の継続性 (70点)  
 意見、意欲があるから。 総合点 (75点)

すべきこと  
 ・地域活性化 呼びかけ 他所へ体験会

横断幕 → モンズでやるよ。  
 遠野まつりで呼びかけ (ポスター、チラシ、宣伝)

事業内容 (75点)  
 理由 目標に対して計画的に進められているから。  
 市民への浸透度 (35点) 理由 パラスポーツ体験会の際に、参加者が少なかったから。  
 今後の継続性 (50点)  
 理由 今後の自分たちが活動してみたいことが、はっきりしているから。  
 総合点 (55点)

今後自分たちがすべきこと  
 ・ブラインドサッカーが市民に知ってもらえるための活動をする!!  
 ・ブラインドサッカーを応援する!!

- 公式アカウント(Instagram) SNS
- 祭り
- ユーチューブ
- YouTube
- Instagram
- Twitter

## グループで中間評価してみた結果のまとめ

|         | A班  | B班 | C班 | D班 | E班 | F班 | G班 | H班 | 平均点 |
|---------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 事業内容    | 100 | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 | 70 | 75 | 81  |
| 市民への浸透度 | 30  | 40 | 30 | 30 | 10 | 30 | 45 | 35 | 31  |
| 今後の継続性  | 80  | 80 | 40 | 50 | 70 | 45 | 60 | 50 | 59  |
| 総合点     | 70  | 60 | 60 | 60 | 75 | 45 | 62 | 55 | 61  |

(評価の理由)

### ○事業内容

- ・目標に対して計画的に進められている。
- ・学生ではない市民へ向けての活動が少なかった。
- ・内容はいいが、あまり広められていない。

### ○市民への浸透度

- ・パラスポーツ体験会の時に参加者が少なかった。
- ・活動しても市民の変化が感じられない。
- ・市民への浸透度を確認できない。わからない。

### ○今後の継続性

- ・意見や意欲があるから。
- ・これからもブラジルチームと交流していきたい。
- ・より深くフラインドサッカーを学びたい。
- ・今後自分たちが活動したい方針がはっきりしている。

### ○総合点

- ・ある程度のことではできているが、まだやるべきこともある。
- ・フラインドサッカーの認知度やホストタウンの取組をもっと市民に広げたいと思う。

## これからの活動計画案 (Act)

**重要課題：事業内容を濃くすること！**

- ① 市民への浸透度を上げる
- ② フラインドサッカーをもっと知り、指導できるようになる



### < 今後の取組計画 >

- 遠野まつりでホストタウンの活動を知ってもらおう！
- 自分たちでフラインドサッカーの試合をしてみよう！

### < 没交渉だった企画 >

- SNSやYoutube等で活動を広める  
(理由：個人情報保護の観点、炎上可能性への危惧)
- 少年サッカー普及事業におけるデモンストレーション  
(理由：誤った指導法やルールを伝播する可能性への危惧)



# 活動④：遠野まつりでの周知活動 (ブラジルチームに来年度も来てほしい！)



伝統の遠野まつりで遠野市がブラジルのホストタウン（共生社会づくり）となっていることをパレードの前に発表する機会を得た。そこでは、遠野高校の活動目的や内容を市民の皆さんに伝えることができたと思う。

その後は、「ようこそ遠野へ！遠野市はブラジルを応援しています！」とブラジル公用語のポルトガル語で書かれた横断幕や旗を持ってパレードした。



パレードをしている間に、市民の皆さん、特にお年寄りの方々や子どもたちに啓発ティッシュを配りをした。このパレードで用いた横断幕や旗、啓発ティッシュは遠野市が作成したもの。私たちが来ている黄色いTシャツも遠野市から借りたもので、ブラジルチームが来た時も来ていたものですが、遠くからもわかりやすく、とても目立っていたと思う。



# 遠野まつりで啓発活動をして気づいたこと

少しは、市民に向けて周知できたと思う。恥ずかしい気持ちもあった人もいたかもしれないけれど、フラインドサッカーを知ってほしい、障がい者も暮らしやすい社会づくりに貢献したいという気持ちがあったから、目的意識を持って取り組むことができた。



次はいよいよ、自分たちで試合をしてみることに！

自分たちが選手として競技力を上げよう。

（目が見えない中でうまく試合ができるのだろうか・・・）

視覚障がい者5人制サッカーの指導法について知ろう。

（ブラジルチームと日本代表の練習を思い出しながら・・・）

# 活動⑤：フラインドサッカー競技を楽しむ (フラインドサッカーの競技力をつけよう)

## 練習内容①「安全に活動しよう！」

### 1. 会場づくり

- ・安全な場所(できれば平らな)
- ・ゴールポスト2台  
(グラウンドホッケーと同じサイズ)
- ・壁(卓球台を利用して)

### 2. 練習メニュー

- ・ルールの確認
- ・声を出すタイミング
- ・壁パス練習
- ・ドリブル&シュート
- ・壁の番号を覚える



フラインドサッカーは普通のサッカーと違って、壁が必要。壁を作ると数百万円かかるらしい。今回は、卓球台を立てて代用した。

## 練習内容②

「声を出して位置と役割を伝えよう！」

### 1. 会場づくり

- ・安全な場所(できれば平らな)
- ・ゴールポスト2台(グラウンドホッケーと同じサイズ)
- ・壁

### 2. 前回の練習メニューの確認

- ・ルールの確認・壁の番号を覚える
- ・声を出すタイミング
- ・壁パス練習
- ・ドリブル&シュート

### 3. 今回の練習メニュー

- ・自分の役割を声で明確にする
- ・相手の位置を声で確認する
- ・声でボールの場所を確認する
- ・声でゴールポストまでの位置を確認する
- ・コーラーは壁の番号を伝える。
- ・ゴールまでの距離と角度を伝える。

## 練習内容③

「チームで力を合わせよう」

### 1. 今日の目標:

- ①チームで工夫をする。  
(どんな工夫をすればいいか考える)
- ②チームで協力する。(役割分担、作戦)
- ③チームで課題解決策を考える。

### 2. 今回の練習メニュー

(ポイント)安全に行うこと。無理はしない。

- ・自分の役割を声で明確にする
- ・相手の位置を声で確認する
- ・声でボールの場所を確認する
- ・声でゴールポストまでの位置を確認する
- ・コーラーは壁の番号を伝える。
- ・ゴールまでの距離と角度を伝える。

## 練習内容④「ゲームを創る！」

今日の目標:

- ①攻守の切り替えを大事にする
- ②チーム内のコンビネーションプレーを創る

|            |             |
|------------|-------------|
| 1. A-B (E) | 6. A-C (E)  |
| 2. C-D (B) | 7. B-D (A)  |
| 3. E-A (D) | 8. C-E (B)  |
| 4. B-C (A) | 9. A-D (C)  |
| 5. D-E (B) | 10. B-E (C) |

1試合3分間

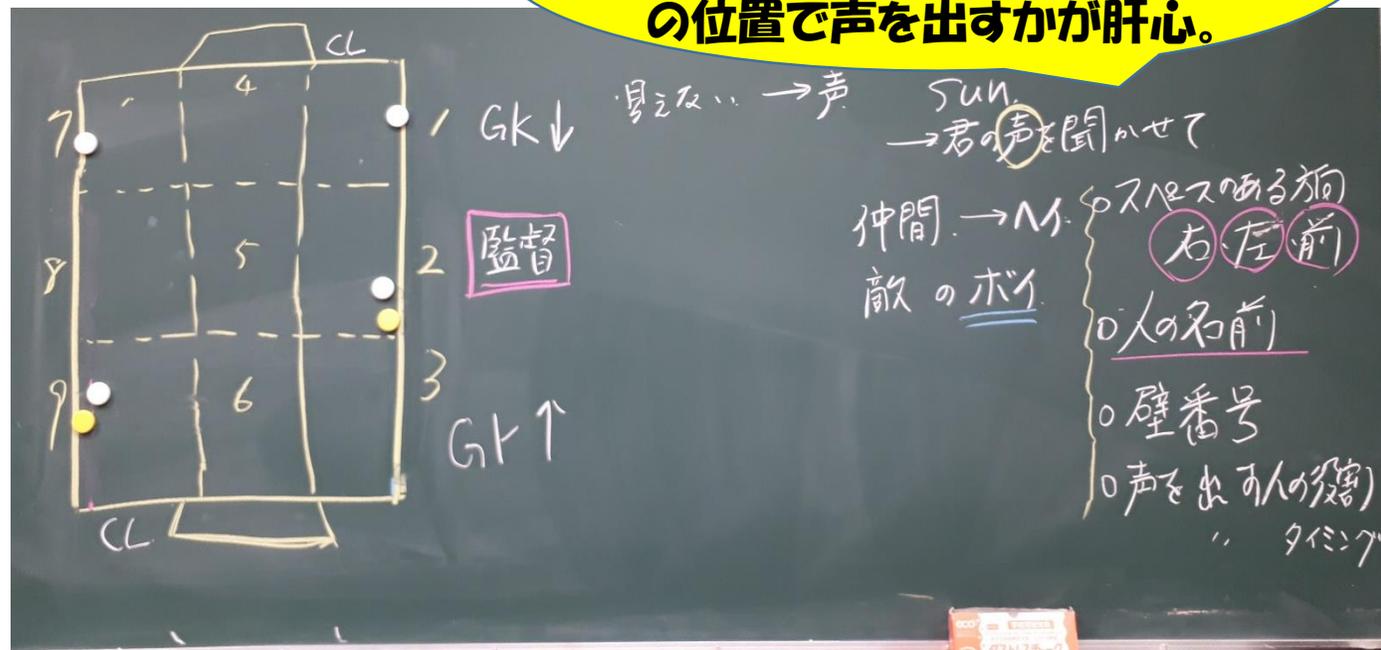
## 2. 今回の練習メニュー

(ポイント)安全に行うこと。無理はしない。

- ・自分の役割を声で明確にする
- ・相手の位置を声で確認する
- ・声でボールの場所を確認する
- ・声でゴールポストまでの位置を確認する
- ・コーラーは壁の番号を伝える。
- ・ゴールまでの距離と角度を伝える。



声や指示の出し方を確認。  
攻守の切り替えには、誰がどの位置で声を出すかが肝心。





**最後の学内マッチは  
思っていた以上に攻撃と  
守備ができた。点数もか  
ない入って白熱しました。  
試合は面白かったです。**

# フラインドサッカー体験試合で気づいたこと

障がいがあると激しいスポーツはできないような気がしていたけれど、訓練次第で競技力を高めることができる。

フラインドサッカーは楽しい。スポーツはすごい、サッカーは素晴らしい！みんなにやってほしい。



- フラインドサッカーの指導者がいると広まりやすい。
- 日本では障がい者スポーツが普及してきたけど、他の国ではどうなんだろう？
- 日本で普及した背景は福祉の充実にあるのかな？
- もっとフラインドサッカーのことを知りたい。

# 5. 活動の成果 ～課題探求レポート作成～

<2年生>

平 賢心

多田 雷羅

中原 礼也

高原 広大

高山 理久

蜂谷 千寿

前田 宗一郎

佐々木 凜

中村 大斗

「フラインドサッカーの知名度を上げる」

「パラリンピック競技人口・知名度」

「少子高齢化について」

「障がい者スポーツと福祉」

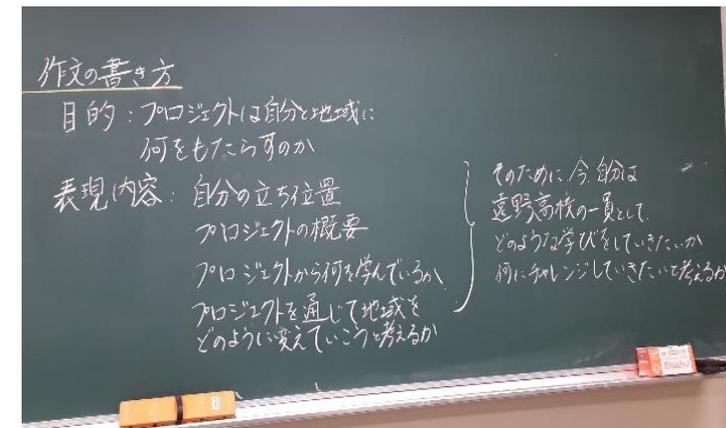
「障がい者スポーツの認知度について」

「障がい者スポーツへの取組と課題」

「パラリンピックの現状」

「共生社会の実現に向けて」

「障がい者を取り巻く日本と外国の現状」



## <1年生>

上野 翔太  
角田 大地  
川崎 大翔  
菊池 琉月  
佐々木 亮成  
佐藤 碧人  
浅沼 瑠香  
伊藤 香月  
大倉 颯太郎  
小原 陽成  
菊池 翔瑛  
栗澤 陸  
小嶋 日妃音  
佐々木 凌弥  
菅田 優斗

「障がい者スポーツの歴史」  
「フラインドサッカーについて知る」  
「フラインドサッカーの歴史」  
「フラインドサッカーの歴史」  
「フラインドサッカー日本と世界の違い」  
「フラインドサッカーが日本に伝わり普及されるまで」  
「パラリンピックの歴史と観戦率を上げるには」  
「フラインドサッカーの歴史」  
「フラインドサッカーが日本にくるまで」  
「フラインドサッカーと共生社会」  
「フラインドサッカーについて」  
「共生社会の実現と障がい者スポーツについて」  
「パラスポーツの認知度とその対策について」  
「フラインドサッカーについて」  
「フラインドサッカーについて」



- 高田 遙可 「障がい者スポーツの魅力と課題点について」  
遠山 海弘 「障がい者スポーツ」  
新田 夢祈 「障がい者スポーツパラリンピックについて」  
宮田 亮郡 「障がい者スポーツについて」  
吉田 孝哉 「障がい者スポーツについて」  
遠藤 淳貴 「日本フラインドサッカー協会について」  
菊池 優斗 「障がい者スポーツの課題解決～福岡県の成功事例を元に～」  
今野 寿哉 「障がい者への配慮」  
千葉 魁 「障がい者スポーツの課題」  
山蔭 一夢 「障がい者スポーツの現状と高齢化社会」  
水野 嵐斗 「日本のフラインドサッカーについて」  
五十嵐 康成 「日本フラインドサッカーについて」  
門間 波功 「パラリンピックについて知り、理解を深める」  
大和 優輝 「パラスポーツの歴史を知り、課題解決につなげる」



## 6. 課題探求レポート考察

ひとり一人が気になったテーマについてインターネットや本等を使って調べたことをレポートにまとめました。

### 調べてみた結果

フラインドサッカーのコートの中では健常者も障がい者も同じだと思ったが、コートの外ではまだまだ対等な生活や暮らしができていないと言えない。フラインドサッカーを通じて共生社会づくりの重要性を改めて感じるようになった。

障がい者が無理なく、自然にスポーツに親しめる環境づくりを考える必要を感じた。



# レポート例) 日本でのフラインドサッカーの歴史

- 1980年代 ヨーロッパや南米を中心に競技が広まった。
- 1990年代 独自のルールでプレーが始まる。
- 2001年 「視覚障がい者の文化を育てる会」を中心とした視察団が当時アジアで唯一導入していた韓国を訪問し、国際ルールに沿った視覚障がい者サッカーの普及が始まる。日本視覚障がい者サッカー協会（JBFA）の前進「音で蹴るもう一つのワールドカップ実行委員会」が大阪で発足。
- 2002年 日本・韓国・ベトナムの3か国によるアジアフレンドリーシップを経てJBFAが正式に発足
- 2019年 現在日本は世界ランキング13位。1位はアルゼンチン、2位がブラジル。

## <日本フラインドサッカー協会の取組>

- 「強化事業」…日本代表の強化を目的とした事業。強化合宿の開催など
- 「育成事業」…国内競技者、指導者の育成を目的とした事業
- 「普及事業」…盲学校や特別支援学校への講習会、用具寄贈、講師育成などを行う
- 「審判事業」…国内の審判を統括する。大会への審判派遣、審判育成、登録などを行う。
- 「大会事業」…国内大会を統括する事業（地域リーグ、日本選手権、クラブチーム選手権）
- 「ソシオ事業」…広報活動、ファンとのつながりを生み出すことを目的とした事業
- 「ダイバーシティ事業」…晴眼者への理解促進を図り、出張授業や社員研修、啓発イベントなどを行う。



# レポート例) 障がい者スポーツ普及へのアプローチ

(認知度アンケートの結果)

障がい者スポーツを知って割合 **96%**

パラリンピックを知っている割合 **100%**

どこで障がい者スポーツを知ったか **テレビ80%、SNS10%、新聞・雑誌2%**

障がい者スポーツのボランティアに参加したことがある割合 **3%**

## <障がい者スポーツの課題>

### ○ 運動実施率の低さ

20歳以上の障がい者の運動未実施率 **58.2%**

7歳~19歳の障がい者の運動未実施率 **38.6%**

## <その原因>

- ・ 指導者不足や施設の不足
- ・ 都道府県、市区町村が地域住民や特別支援学校、総合型地域スポーツクラブとの連携が乏しい。

## <課題解決策の一例>

○ 地域の障害福祉センターで「地域スポーツ支援リーダー」を独自に養成 (長野県)

○ 指導者を特別支援学校に派遣し、運動部活動の充実を図る。特別支援学校を拠点とした障がい者の地域スポーツクラブを創設。教員や保護者の学びの場としている (福岡県嘉穂特別支援学校)

# レポート例) 共生社会の実現に向けて

## <視覚障がい者が日常生活で困っていること>

- ・ 尋ねたいことがあっても、聞く相手の居場所がわからない。
- ・ 飲食店などでメニューが読めない。
- ・ お店の中での移動や欲しい商品の選定が難しい。
- ・ 音声案内のない信号では、わたるタイミングがわからないので危険。
- ・ 点字ブロックの上に人がいたり、物が置いてあると危険。
- ・ 駅のホームから転落して電車にひかれて亡くなる人が多い。

## <主な配慮>

- ・ 音声案内、点字表示
- ・ 声かけ（前方から）
- ・ 指示語ではなく実際の方向や大きさを具体的に話す
- ・ 駅にホームドアを設置するなどできることから…

## <障がい者を取り巻く日本と外国の現状＝障がい者の権利を保障している>

**日本**：「障がい者の暮らしを快適にするために」という問題に対して1946年（昭和21年）4月に「官立盲学校及び聾啞学校官制」が公布された。1993年に「障がい者基本法」によって支援体制が整備され、「ノーマライゼーション」から「ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）」の考え方に移行し浸透している。

**アメリカ**：1964年に「公民権法」、1971年に障がい者差別禁止の理念を組み入れて「公民権法改正」が行われた。1990年代に高齢者や発達障がい者の権利擁護を保障する法律が制定されている。

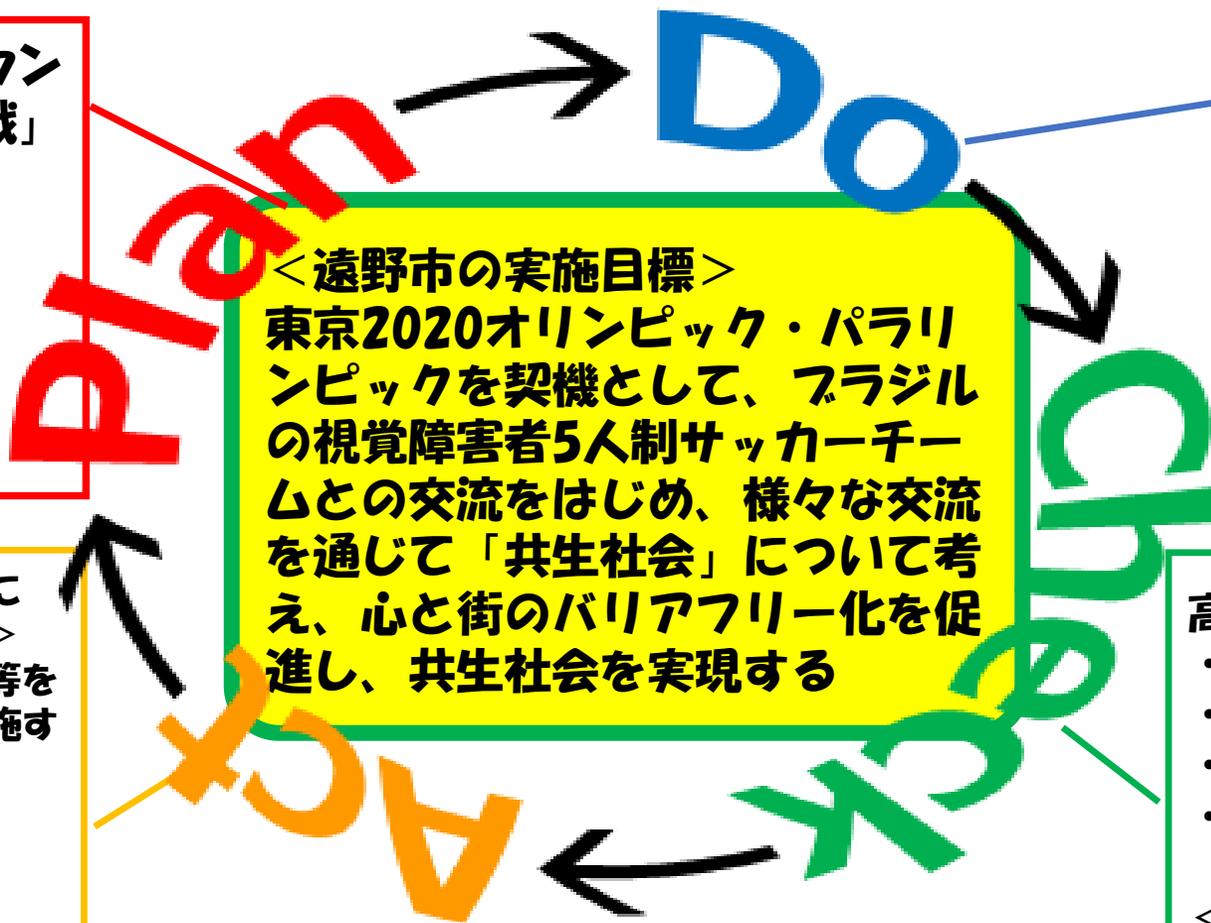
**イギリス**：1995年に障がい者差別禁止法が制定。2010年に障がい者政策の基盤となる平等法が制定され、障がい者権利条約が締結された。

# 7. 1年間の活動を振り返って

Plan (計画) → Do (実行) → Check (検証) → Act (改善)

「パラリンピックホストタウン  
遠野市の挑戦」

サッカーの好きな高校生として  
フラインドサッカー  
ホストタウン遠野市の  
共生社会づくりに貢献する。



＜遠野市の実施目標＞

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として、ブラジルの視覚障害者5人制サッカーチームとの交流をはじめ、様々な交流を通じて「共生社会」について考え、心と街のバリアフリー化を促進し、共生社会を実現する

- 視覚障がい者理解のための白杖・アイマスク体験会開催
- 障がい者スポーツ体験会ボランティア
- 視覚障がい者5人制サッカーフラインドチームサポート
- 遠野まつりにおける取組の周知活動
- フラインドサッカー試合体験

＜障がい者スポーツ体験会の継続に向けて＞

内容、期間、対象、場所、予算等を考慮に入れて目的に沿った事業実施すること。

例) 白杖体験・アイマスク体験会  
指導者育成研修会、  
障がい者スポーツ普及体験会等

重要なことは取組を発信すること！

高校生の視点でチェック

- ・事業内容 ( 点)
- ・市民への浸透度 ( 点)
- ・今後の継続性 ( 点)
- ・総合点 ( )

＜今後、自分たちですべきこと＞

- 障がい者スポーツ体験会を継続し、知名度を高める取組をする

## 8. まとめ 活動から感じたこと、今後に向けて

- 障がいの有無にかかわらずできるフラインドサッカーは面白い。
- 東京2020パラ フラジルチームと日本チームの活躍が楽しみ！
- 遠野市の共生社会づくりを進めて、やさしい街に変えたい。
- このような機会を与えてくれた遠野市に感謝したい。



### <プロジェクトに参加して>

- ・改めて遠野市（地域）と共に進みたいと思った。
- ・皆で意見を出し合って解決策を考える必要性を感じた。
- ・笑顔で活動する、率先して動くことの大切さを感じた。
- ・様々なことを言葉で伝えることにチャレンジしたい。

# United by Emotion

(感動で私たちは一つになる)

遠野市の共生社会づくりを進めて、未来の財産にしよう！

